〔おもひのまゝの日記〕四方拜はれいの事なれど、まだ夜ぶかきに御裝束よそひたれば、殿上のうへ人廿人ばかり、よべより參りこもれり、奉行の藏人を初めとして、去そくの光りひるにをとらず、御裝束のぎは、供花より初めて、ふるきまゝにきら〳〵しくよそひたり、まだ寅の刻に事はてぬれば、人々まかでぬ、

〔歌林四季物語春〕一人の御身と申せども、あさまつりごとのはじめは、いみじく心づからの本意まもらせ給ひて、元正の寅の三つにあたるころほひ、ひんがしの御庭にみゆきなりまして、天地山陵をおがみいのらせおはしまし、御屬星の御拜などなさせ給ふなるべし、これひたすら御身の御ためばかりにあらず、一とせのあまつかみくにつかみ、はふむしまでのいのりごとにて、もはら一とせのかぎりあやぶむべきわざはいをいのらせ給ふ、中臣の御はらひ、ろッこむのはらひなどあるべきにや、この事すうじんのあめが去た去ろしめす、みとせにあたらせ給ふときになんはじまれり、天地四方をおがませたまふによりて、四方拜とはものするにこそ、

朝賀

朝賀ハ、ミカドヲガミト稱シ、毎年正月元日、天皇大極殿ニ御シテ百官ノ賀ヲ受ケ給フ大禮ナリ、前年十二月中ニ、大臣豫メ擬侍從以下ノ職員ヲ定メテ奏上スル事アリ、又此等ノ職員ヲシテ禮容ヲ整ヘシメンガタメ習禮ノ事アリ、大極殿ニハ高御座及ビ皇后ノ御座ヲ設ケ、庭上ニハ銅烏幢ヲ始メ、日像、月像、朱雀、青龍、白虎、玄武等ノ旗ヲ樹ツルナド、其裝飾大抵卽位ノ儀ニ同ジ、當日未明ニ、諸衞大儀仗ヲ殿庭及ビ諸門ニ立テ、皇太子以下群臣、次ヲ以テ參入シ、版位ニ就ク、天皇皇后共ニ御座ニ出御アリ、皇太子先ヅ進テ高御座ノ前ニ至リ、跪キテ賀